

例会報告：2013年3月19日（晴れ）第1790回年通常例会

【続き】晴れと澄み渡った景色を見た時自然とそういう気持ちになりました。オリンピック競泳の北島康介選手の本の中で「誰よりも金メダルを欲しいと思い、プレッシャーを乗り越えたからこそ僕は金メダルを手にすることが出来た。」という私の大好きな言葉があります。体格でも技術でもライバルから劣っており、試合当日も体調を崩していた私が金メダルを取れたのは正にその言葉通りだと思います。今回の挑戦でピンチな状況下でも決して諦めず、食らいついていく姿勢の大切さを改めて学びました。来月からは社会人として民間の製薬会社に就職するので、今までとは全く違うフィールドに足を踏み入れる事になります。会社に貢献出来なければ遠慮なく疎まれ、障害があるからと言って言い訳が出来るような場所ではないので、今までの環境とのギャップに悩み苦しむのだらうと思います。けれど私も普通の社会人になって多くの人から信頼され、必要とされる存在になりたいですし、沢山お金を稼いで自立したいと思っています。持ち前の負けん気と22年間の水泳人生で学んできた多くの経験を生かして今後はOLとして活躍していきたいと思っています。

◆ ビジター

奥山 恵子様 (小田原北RC)
山本 伸一様 (足柄RC)

◆ ゲスト

木村 なおみさん (小田原城北RAC)

◆ 会員誕生日

辻村 彰秀さん (3月22日)
小嶋 章司さん (3月24日)

◆ 結婚記念日

清 康夫さん (3月24日)
菊地 義雄さん (3月25日)

◆ 奥様誕生日

石橋 香穂利さん (3月24日)

◆ ニコニコ箱

大木 清委員

	ニコニコ箱	累計	目標
3月19日分	13,000	744,040	1,300,000

* ビジター

奥山 恵子様 (小田原北RC) …こんにちは、よろしくお願ひします。
山本 伸一様 (足柄RC) …本日、突然のメイクアップでご迷惑おかけいたします。申し訳ございません。今日1日宜しくお願ひ申し上げます。

* 会員誕生日

辻村 彰秀さん…お誕生日のお祝ひありがとうございます。

* 結婚記念日

清 康夫さん…結婚記念頂き有難うございます。この3月24日で47年になりますが、夫婦ともに元気ですので、これからはより一層健康に注意していこうと思います。これからも宜しくお願ひします。

菊地 義雄さん…4十数回目の結婚記念日です。お祝ひありがとうございます。相手方は増々強くなっております。



RAC
会員募集中

相応しい会員をご紹介ください！

■ ■ ■ 今後のメーキャップ情報 ■ ■ ■

-2013年3月-

- ▶ 27日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「会員卓話」
- ▶ 28日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
「クラブ・フォーラム:PETS報告」
- ▶ 29日(金) 湯河原 休会
足柄 おんりーゆー 12:30
「会員卓話/青春そして今」

-2013年4月-

- ▶ 1日(月) 小田原 報徳会館 12:30
「卓話:川村 啓司会員/化粧品にまつわる最新事情」
- ▶ 2日(火) 箱根 宮ノ下富士屋ホテル 12:30
「卓話:ピオラとバイオリンの演奏」
- ▶ 3日(水) 小田原北 M.U.受付なし
「観桜会」
- ▶ 4日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
「卓話:川本 信隆会員/自己紹介」
- ▶ 5日(金) 湯河原 ニューウエルシティ湯河原 12:30
「卓話:石田 浩二会員」
足柄 おんりーゆー 12:30
「会員卓話/青春そして今」
- ▶ 8日(月) 小田原 報徳会館 12:30
「卓話:広報委員会/クラブ・フォーラム」
- ▶ 9日(火) 箱根 宮ノ下富士屋ホテル 12:30
「卓話:山田 敏理会員」
- ▶ 10日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「卓話:退会者挨拶」
- ▶ 11日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
「卓話:二神 典子(ロータリーの友事務所編集長)/未定」
- ▶ 12日(金) 湯河原 ニューウエルシティ湯河原 12:30
「卓話:クラブ協議会」
足柄 おんりーゆー 12:30
「会員卓話/青春そして今」

【小田原城北ロータリー・クラブ】
事務局：〒250-0211 小田原市鬼柳172-9
電話：0465-37-1222 FAX：0465-37-7377
URL：http://www.odawarajhrc.jp
Mail：info@odawarajhrc.jp
例会場：小田原卸センター内会議室
創立：1976年4月2日 承認：1976年5月8日
例会：毎週火曜日 12:30～13:30
クラブ会報委員会
監修：久保田 知子
編集長：須賀 俊和
コピーライター：大川 誠
デザイン：小林 和彦
フィールド：須藤 公司・小楠 雅昭

会員数：49名



国際ロータリー第2780地区

小田原城北ロータリー・クラブ

R.I. DISTRICT No.2780
ODAWARA JOHOKU R.C.
2012-2013
WEEKLY BULLETIN



【R.I. 会長】
田中 作次
【R.I. 2780地区ガバナー】
菅原 光志
【第9グループガバナー補佐】
鈴木 悌介



【会長】小嶋 章司
【副会長】中野 明
【幹事】久保田 知子
【副幹事】大川 久弥
【会場監督】清 康夫

奉仕を通じて平和を PEACE THROUGH SERVICE

本日の例会：通常例会（第1791回）

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2013年3月26日 12:30～13:30
司会：大川 久弥 副幹事

12:30	開会点鐘：小嶋 章司 会長 ローターソング斉唱「それでこそロータリー」 スピーカーおよびビジターの紹介 慶事祝福 会長挨拶 幹事報告／出席報告／委員会報告 同好会報告／ニコニコ箱
13:00	担当：執行部 卓話：露木 清勝会長エレクト 「PETS報告」
13:30	閉会点鐘：小嶋 章司 会長

寄稿 (6/7)

綱領の第3 ロータリアンすべてがその個人生活、事業生活および社会生活に、常に奉仕の理想を適用する事はロータリーでいう社会奉仕であると思う。1910年アーサーフレデリックシエルドンが、ビジネスはすべて社会に尽くす手段でなければならぬと言っている。
ロータリアン一人々が、超私の奉仕を実証する機会を作らなければなりません。
地域に住む人々の生活の質を高め、公共の為に奉仕する事はすべてのロータリアン個人にとって、又RCにしても献身に値する事であり、社会的責務であろうと考えます。孤独な老人、身障者援助、薬物濫用者や環境問題、識字率向上、青少年問題、ローターアクト、インターアクト等とロータリアンが手を差しのべる課題であろうと思ひます。

河野 秀雄

今見つめ直そう不易なるものと流行

【今後の例会・卓話スケジュール】

4月2日 夜間移動例会 門松17:10 (創立記念)
担当：執行部
卓話：小林 泰二会員
「未定」

4月9日 通常例会 12:30
担当：小嶋 章司会長
卓話：片山 清宏様／松下政経塾第31期生
「未定」

4月16日 通常例会 12:30 (クラブ・フォーラム)
担当：指導者育成委員会
卓話：石崎 孝委員長・河野 秀雄委員
「ロータリーの職業奉仕について」

4月23日 通常例会 12:30 (クラブ協議会)
担当：次年度執行部
卓話：地区協議会出席者
「地区協議会報告」



例会報告：2013年3月19日（晴れ）第1790回年通常例会

会場：小田原卸センター内会議室

時間：12:30～13:30

❖ 会長挨拶

「思いやり」



小嶋 章司 会長

随分以前に《ザ・ロータリアン》で「ロータリアンを一口で言えば」というアンケートにベテランロータリアンが答えていた中に、寛容・思いやり・同情というのがありました。

寛容というの、相手に思いやりの心を持つことから生まれるのであり、同情という言葉も同じ感情を持つというのが語源だそうです。つまり相手と同じ生活感情を持ち、他人の喜びを喜びとし、悲しみを悲しみとして分かち合うという、思いやりの心に他ならないと思います。したがって、ロータリーを一言でいうならば「思いやりの精神に結ばれた団体」といっても過言ではないと思います。

ロータリーの創始者ポールハリスは《ザ・ロータリアン》の創刊号で、寛容という言葉の特筆大書きしていますし、ロータリーのビルダーと言われるチェスレーペリーは「奉仕とは他人への思いやりと助け合いである」と言っています。それでは、「思いやり」について世界の人たちの一言を紹介します。

自動車会社フォードモーターの創設者ヘンリーホードは「成功に秘訣というものがあるとすれば、それは他人の立場を理解し、自分の立場と同様に他人の立場から物事を見る能力である」
三菱財閥の創業者、坂本龍馬と交流があったとされる若崎弥太郎の孫娘サンダーホームの沢田美喜さんは「足の悪い人を見たら片方の足が短いと思うより片方の足が長いと思う」
フランス革命で活躍した軍人ジュールベルは「片眼の友は横から眺めよう」

また、中国のこたわぎに「背の低い人・足の短い人の前では（たとえばこの鉛筆短いか）短いという言葉は言うてはならない」
最後にイギリスの国王ウインザー公の宴席で、インドの王様がフィンガーボールの水を誤って飲んでしまったそうです。
いならぶ各国の王様はそのマナーの無知をあざ笑う視線を交わしていた時、ウインザー公は自分の目の前のフィンガーボールの水をグイと飲みましたそうです。

❖ 幹事報告



久保田 知子 幹事

- 1)元会員の石井安治様のご逝去されましたので、クラブの会則により生花と弔慰金をお届けさせていただきました。心よりご冥福をお祈りしたいと思います。
- 2)定例理事会のご案内ですが、再来週の夜例会（門松）の前、午後4時より開催させていただきますので、理事の方はよろしくお願い致します。

❖ 委員会報告

金山慶昭次年度幹事

次年度の委員長・プロジェクトリーダーに、2枚の資料を配らせて頂きました。先週お配りいたしました委員会の構成表を確認し、委員会を開催していただき4月23日の例会までに、次年度の活動計画書の提出をお願い致します。それに伴い委員長の会議を5月9日に「だるま」にて開催させていただきますのでよろしくお願い致します。

❖ 出席報告

中野 明副会長

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
3月19日	49(47)	36	2	80.85%
3月12日	49(46)	37	1	82.61%
3月5日	49(49)	41	0	83.67%

【欠席者】 11名

上田 博和、石橋 徹、志澤 昌彦、守屋 善男、大川 裕
鋤持 悟、須藤 公司、田代 博信、内山 修一、木村 啓滋
一寸木 信雄

【今回MU】 2名

鋤持 悟 (3/10 小田原城北RAC)
須藤 公司 (3/10 小田原城北RAC)

【前回MU】 増加なし

【前々回MU】 増加なし

❖ Table Flower

- ストック
- スイトピー

ストックの花言葉は
「豊かな愛」「平和」「思いやり」
スイトピーの花言葉は
「ほのかな喜び」「門出」「優しい思い出」



❖ 卓話

ロンドンパラリンピック競泳女子100m 背泳ぎ金メダリスト

秋山 里奈様



まずは簡単に経歴の方からお話したいと思います。私は昭和62年に伊勢原市に生まれました。生まれつき目が見えませんでした。4、5歳位まで自分が周囲の友達とは違うという事を認識せずにおりました。幼稚園と小学校は平塚の盲学校に通いながら、週に1回程度地元の普通の学校に交流という形で通わせてもらい、健常者の子供たちと接する機会を作ってもらいました。中学、高校は自らの決断で東京にある筑波大学付属盲学校を受験して寄宿舎に入りました。その後は1年の浪人生活を経て明治大学法学部に入学し、大学にある3年早期卒業制度を利用して大学院に進学し、今月の26日に卒業式で修士号を取得予定です。

やりたいと思った事は何でも挑戦させてもらえる環境にありましたので、小さい頃から水泳、ピアノ、エレクトーン、英語などの習い事や、自転車やローラースケート、スキーなど色々な事に挑戦してきました。目が見えなくても人より時間を掛けたり、工夫をすれば大体の事は出来るようになりました。その中で私に最も大きな影響を与えたのが水泳です。視力が無くても危なくなく、全身を動かせるスポーツだったのと、物心がつく前から水遊びが好きだったので、3歳の時に姉が通っていたスイミングスクールに入れてもらいました。健常児のようにコーチの泳ぎを見て真似る事も出来ませんし、言葉で説明しても頭の中でイメージが上手く出来ず、支持的に理解することも難しい全盲の生徒はコーチ達を悩ませたと思いますが、水の中で手とり足取り教えてくれたり、解り易い例を挙げて教えてくれたり、試行錯誤しながらそれぞれのコーチが指導を工

夫してくれました。習い事の一環としてやっていた水泳ですが、具体的に目標を持つきっかけになったのが、小学校の5年生の時に夏休みの読書感想文の課題図書で渡された「夢をつなぐ」という本で、全盲のスイマーの河合純一さんがアトランタパラリンピックで金メダルを取った事を知り、私も河合さんのように金メダリストになりたいと思いました。その河合さんとは中学に入って知り合うのですが、水泳選手としてだけではなく一人の人として尊敬でき、今でもずっと私の前を常に歩いて背中を見せてくれる存在です。

また同じ時期に姉のシンクロナイズドスイミングのコーチであったソウルオリンピック銅メダリストの小谷実可子さんから、一生懸命頑張った人にはこんなものが貰えるんだよと銅メダルを首にかけてもらった経験が私に大きな影響を与えました。

私が初めてパラリンピックの舞台に立ったのは16歳の時のアテネ大会です。その時は出られるだけで十分だと思っていたし、何もかもが分からない状態でしたのでさほどプレッシャーを感じていませんでした。自己ベストが出ればそれで十分と思った100m背泳ぎで銀メダルを獲得出来たときは只々大喜びで興奮しました。表彰台の上で銀メダルを首にかけてもらった時は、その重みに驚き感激しました。しかし、優勝者の中国国歌が流れた時、元来負けず嫌いの私の闘志に火が付き喜びと同じ位の悔しさが込み上げてきました。そして4年後の北京大会では、自分が表彰台の真ん中に立って会場に君が代を流したいと決意を固めました。しかし北京の1年前、パラリンピックの実施種目から100m背泳ぎが廃止されることが決まり、膨らんでいた期待は一気に打ち砕かれる事となりました。私たち全盲の女子の競泳は50mと100mの自由形2種目のみに出場が許され、出場するのであれば背泳ぎから苦手な自由形へ変更しなくてはならず、更に自由形には国内では私よりも早い選手がいますので、メダルの前に代表選手に選ばれるか選ばれないかという厳しい状況に置かれました。しかし1か月間悩んだ据えに、世界1を目指す道が残されているのであれば挑戦しないと後悔すると思い、種目変更を決意しました。それをコーチに伝えた時に「どんな結果になったとしても、努力してきた過程も含めて全てを受け止める覚悟があるならば一緒に頑張ろう」と言われ、その言葉の重みに涙が止まらなくなりました。それがロンドンまで共に戦ってくれた遠藤コーチと私が、選手とコーチの関係を築いて2人3脚で歩始める第1歩となりました。2度目のパラリンピックのプレッシャーは予想以上に大きく、初戦の100mでは緊張のあまり召集上で大泣きをしたあげく、筋肉が固まった状態で泳ぎ最下位で予選落ちをしました。けれども得意の50mでは自己ベストを大きく更新して予選を通過し、決勝の舞台に立つ事が出来ました。決勝はパラリンピックに出られた喜びや自由形が専門の選手達と互角に戦えるようになった事への誇りを胸に思いっきりレースを楽しみました。8人中8位という結果を見れば惨敗という事になりますが、精一杯努力をしての8位だったので、アテネの銀メダルに負けにくい胸を張って皆に報告出来ましたし、生まれて初めて競泳というものを心の底から楽しむことが出来たのが北京で、それが何よりもうれしかったです。そんな北京を終え、ロンドンでも背泳ぎは種目から外れるだろうし、このまま競技から離れようかと思いました。その一方で北京のレースがあまりに楽しすぎて、このまま辞めてしまおうのもつたいないという気持ちもあり、コーチに相談したところ、「里奈を背泳ぎの世界チャンピオンにしたい、オランダの世界選手権まで一緒に頑張ってくれないか」と言われました。信頼するコーチと一緒に夢を追う事が嬉しくて2010年の世界選手権で金メダルを取る目標を立てました。北京まで以上に練習を積みましたし、確実に強くなっているというデータの裏付けもあったので、自信を持って本番を迎えました。しかし、結果は最後の5メートルでイタリアの選手に抜かれてまたも2位。かなり自信があったのでショックは想像以上に大きく、レース直後は放心状態で



立っているのもやっとでした。銀という色が嫌で、表彰式から逃げ出して早く首からメダルを外したいと思いながら、もう私には水泳は無理だと思いました。メダルの色は同じでも、アテネの時とはまるで違う気持ちで聞いたイタリア国家を私は今でも忘れる事が出来ません。多分今迄一番大きな挫折だったと思います。帰国後もショックから立ち直れずに、ただ1か月半俯抜け状態で、廃人のような生活を送りました。大げさではないですが、このままいたら大学も辞めて、一生引きこもりの人生を送るのではないかとさえ思いました。幸か不幸かそんな時に2012年のロンドン大会で背泳ぎが復活するという知らせを受け取りました。しかし、もうこれ以上頑張れないし、もう二度とあんな悔しさは味わいたくないという気持ちが80%、ここで辞めたら今よりもっと大きな後悔をするのではないかとという気持ちが20%。私はまた迷ったあげくコーチの所に相談に行きました。コーチも「あの時は最大限の努力をしてきたつもりだったけど、今思うとまだやっておくべきことがあった気がする。今回の負けはコーチの責任でもある。」と言われました。その言葉で私の気持ちは決まりました。私一人で背負ってきた責任をコーチも一緒に背負ってくれたことで大分楽になったし、まだやれる事があるのならそれをやり切って辞めないと後悔するという考えに変わりました。そこからロンドンまでの道のりは壮絶な戦いでした。練習は今まで以上しているのにオランダで負けた悔しさがトラウマになって、レースをする事、練習中にタイムを計られる事さえも怖くなり、泳げば泳ぐほどタイムを落としていきました。そんな状況下であっても、自分の気持ちが揺らがないように金メダル宣言をテレビや新聞などのマスコミに向けて、また公の場で大々的に行いました。公言することにより自分を極限まで追い込み、絶対に金メダルを取らなければならないような状況を作らなければならないと思ったし、その位のプレッシャーに勝てないうちは世界一にはなれないと思いました。

そしてロンドン直前に行われた国内の大会で世界記録を更新し、2年に渡るスランプからやっと脱却することが出来ました。しかしロンドンに入ってから体調を崩してしまいました。世界記録保持者として初めて金メダルを狙う緊張感、練習中ライバルに出会った時襲われる恐怖感、長期間コーチと離れて調整しなくてはならない不安感。全てが一気に押し寄せてきて体調を崩す以前に筋肉が硬直して普段の泳ぎが出来なくなっていました。初日の自由形ではスタートでフライング失格、次の日の自由形でもベストから3秒も遅いタイムで予選落ち、メインの背泳ぎの予選でも3位通過。それから8時間後の決勝は、最後まで諦めない自分らしい泳ぎをしようという覚悟を決めスタート台に立ちました。スタートから全力で泳いで前半で出来るだけ差を広げるのが私のレーススタイルですので50mは世界記録ペースで折り返しました。後半75mの所でコースロープにぶつかり失速し、やばいと思ったのですが、そこからは金メダルを強く頭に浮かべゴールしました。コーチから1番だよと聞いたとき信じられなくて、もう1回聞き直し2度目と思わずガッツポーズが出ました。うれいしと言い表せないほどの喜びでした。2位のニューゼランドの選手がとても速かったよ、おめでとくと祝福のハグしてくれたのも素敵な思い出です。表彰台の上で君が代を聞きながらアテネからの8年間、先が見えず何度も諦めそうになったけれど、水泳を続けてきて良かったと思いました。そして私の此処が引き際だと直感的に感じ、もうこの舞台には戻って来ないと思ったので、自分を世界一にしてくれたロンドンの会場に、今まで応援し支えてくれた全ての人に、そして私をここまで育ててくれた水泳に感謝の気持ちを込めて最後に礼をしました。私は水泳を一番輝いた状態で思い出に残しておきたいので世界一になったら引退すると言ってききましたが、そういう事に関して実感が湧いていませんでした。それが実際に世界一になり、表彰台の真ん中で、どこまでも晴れ【続く】

